

# 冬のちよう

小川未明

青空文庫



すがすがしい天気てんきで、青々あおあおと大空おおぞらは晴はれていましたが、その奥底おくそこに、光ひかった冷たつめい目めがじつと地ちじょう上じやうをのぞいているような日ひでした。

美しい女めちようは、自分じぶんの卵たまごをどこに産うんだらいいかと惑まどっているふうでありました。  
なるたけ暖あたかな、安あんぜん全ぜんな場所ばしょを探さがしていたのでした。

もう、季節きせつは秋あきの半なかばだったからです。その卵たまごが孵ふ化かして一ひとぴきの虫むしとなって、体からだに自分じぶんのような美うつくしい羽はねがはえて自由じゆうにあたりを飛とべるようになるには、かなりの日にっすう数すうがなければならぬからでした。

「ああ、かわいそうに、こんな時分じぶんに生まうまれてこなければよかつたのに……。」「とって、女めちようはまだ見みない子供こどものことを憂うれえたのでありました。

彼女かのじよは、さらに、そのような心しんぱい配はいをしなくてはならぬ、自分じぶんをも不幸ふこうに考かんがえたのでありました。

「なぜ、私わたしは、もつと日ひの長ながい、そしていろいろの花はながたくさんに咲さいている時分じぶんに、この世よの中なかへ生うまれてこなかつたのだらう。」と、思おもわずにいられなかつたのです。

どこか、庭にわの捨すて石いしの下したからはい出でてきた、がまがえるが、日ひあたりのいい、土手どての草くさ

の上うへに控ひかえて、哲てつ学がく者しゃ然ぜんと瞑めい想そうにふけつていましたが、たまたま頭あたまが上うへへ飛とんできた、女めちようのひとりごとをきくと、目めをぱちりと開あけて、大おおきな口くちで話はなしかけました。「そのころの世よの中なかのことなら、私わたしがよく知しっている。話はなしてきかせるから、木きの葉はにとまつてすこし休やすみなさい。」

女めちようは、びつくりしました。そこにいて、さつきから獲えも物をねらっていた、恐おそろしい怪かい物ぶつに気きがつかなかったのです。  
「わたしは、おまえをとろうとは思おもっていない。私わたしは、いまなにもたべたくない。静しずかに、昔むかしのことを思おもっていたのだ。春はるから夏なつにかけては、私わたしたち、生せい物ぶつは、だれもかれも幸こう福ふくなものだった。それから見みれば、いまのものは、かわいそうだと思おもうよ。」

こうがまがえるがいったので女めちようは、自分じぶんに同どう情じょうしてくれるものと思おもって、立たち上がったのを、引ひき返かえしてきて、かたわらの一つの葉はの上うへに止とまりました。  
「後ご生しょうですから、私わたしのお母かあさんや、お父とうさんたちの、黄おう金こん時じ代だいのことを話はなしてください。きくだけでも、生うまれてきたかがありますから。」と、彼かの女じよは、頼たのみました。

「それは、野のにも、山やまにも、圃はたけにも、花はなという花はなはあつたし、やんわりとした空くう気きには、甘あまい香かおりがただよっていた。鳥とりが鳴なき、流ながれがささやき、風かぜさえうたうのだから音おん楽がくが

いたるところでできたものだ。それは、このごろの悲しい歌とちがって力のあふれたものだった。おまえさんたちの知らない、いろんなちようを見たよ。おまえさんが、美しくないというのでは、けつしてないが、それは、美しいちようがたくさん飛んでいた。人間は、花よりも、かえって、ちようちようといって、ほめそやしたものだ。ちよつとおおげさだが、空中いつぱいちようだといってよかつたんだ。」

「まあ、そんなに、私たち、ちようばかりだったのですか。そして、そんなに、人間に愛されたのですか。」と、女ちは目をまわすばかりおどろきました。

すると、がまがえるは、冷静な調子で、語りつづけました。

「おまえさんは、どう思う。そんなにちようがたくさんいて、どの圃にも、どの花壇にも、いつぱいで、みつを吸うばかりでなく卵を産みつけたとしたら。たちまち、若木は坊主となり、野菜の葉は、穴だらけになってしまう。そうなつてもちようをきれいだなどというのは、ただふらふらしている遊び人だけで百姓や、また草木をかわいがる人間は、そうはいわない。一滴からだにいついたら、死んでしまうような殺虫剤で、朝から晩まで、ちようの後を追いまわしたものだ。おまえのお母さんや、おまえさんが、子供の時分に殺されなかつたのは、よほど、運がよかつたのだ。」

これをきくと、女めちようは、本能的ほんのうてきに、くもをおそれ、人間にんげんをおそれたことが、ま  
ちがいでなかったのを悟さとりました。そして、さらに、なんとなく無気味ぶきみに感かんじたので、が  
まがえるからも遠とおくはなれて飛とび去さったのです。

彼女かのじよは、庭にわのすみにあつて、日ひ当あたりのいいからたちの木きを撰えらびました。そこには、  
鋭すい無数の刺とげがあつて、外そとからの敵てきを守まもつてくれるであろうし、そのやわらかな若葉わかばは卵たまご  
が孵ふ化かして幼虫ようちゆうとなつたときの食しょく物もつとなるであろうと考かんえたからでした。

彼女かのじよは、子供こどもに対する最後さいごの義務ぎむを終おえたのでありました。そして、子供こどもらの将しょうら  
来いの幸福こうふくをねがうように、からたちの木のいただきを三、四へんもひらひらと舞まうと、  
あだかもあらしに吹ふかれる落おち葉ばのように、女めちようの姿すがたは、青空あおぞらのかなたへと消きえて  
いつたのであります。

秋草あきくさの乱みだれた、野原のほらにまで、女めちようは一き氣とに飛とんでくると氣きがゆるんで、一ほん本の野の  
菊ぎくの花はなにとまつて休やすみました。

このうす紫むらさき色の、花はなの放はなつ高たかい香こう気きは、なんとなく彼女かのじよの心こころを悲かなしませずにいま  
せんでした。

「冬ふゆを前まえにして、なんと私わたしたちは、悪わるい時代じだいに生うまれてこなければならなかつたのだらう

「  
彼女が、こういつているのを、だまつてきいていた野菊は、

「なんの、まだ季節の遅いことがあるものですか。このように、野にはいろいろの花が咲  
いているではありませんか。このあいだここへやってきた緑色の蛾は、夏のはじめの  
ころ、なんでもおおぜいが群れを造つて、あの国境の高い山々を越えて七十里も、  
八十里も、あちらの方から旅をしてきたといっていました。まだ冬になるまでにはだいが  
間のあることです。いろいろおもしろいことがありますよ。」といつて、女ちようをなぐ  
さめるとともに、自分で、自分をなぐさめたのでありました。

その翌日は、秋にはめずらしい暖かな日でした。強く射す光に、草の葉はきらきらと  
輝いて、冬などはどこか遠い地平線のかなたにしかないと考えられたのです。

このとき、黒く、雲のように、頭の上の空をかすめて飛んでいったものがあります。女  
ちようは昨日から、この野の中に一夜を明かしたのであるが、音のする上を見あげて、渡  
り鳥にしては小さいと思つたので、

「あれは、なんですか。」と、花に向かつて、たずねました。

「あれですか、ぼつたの群れが、どこかへ移つてゆくのです。」と、花は答えました。

どこかに、もつといい土地があるのであろうと、女ちようは考えていました。

その晩の月は、明るかったのです。そして、地虫は、さながら、春の夜を思わせるように哀れつぽい調子で、唄をうたっていました。

幾たびか、眠られぬままに、からだを動かしていたちようはついに、月の光を浴びながら、どこへとなく、飛び去ってしまいました。

そしてふたたび、彼女の姿は地上に見られなくなりました。

うすく霜の降りた、ある寒い朝、からたちの枝の先のところろにしがみついて、金色の日の光を、ありがたそうに待っている青虫がありました。いじらしくも、そのからだには、わずかに羽が生えかかっているのです。

たまたまかたわらにあつた家の窓から、顔を出して、これを見た主人は、傷ましうに、

「ああ。」と、感動して、声をあげました。なぜなら、彼はいまの時代に生まれてきた、自分の子供たちや、多くの子供たちのことについて、考えていたときであつたからです。「かわいそうに、こう寒くては、死んでしまうだろう。悪い時節に生まれてきたものだ。野にも、圃にも、花と光がないごとく、この社会にも、自由と空想と芸術が滅び

たのだから。」



# 青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第6刷発行

初出：「民政」

1934（昭和9）年1月

※表題は底本では、「冬《ふゆ》のちよう」となっています。

※初出時の表題は「冬の蝶」です。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：仙酔ゑびす

2012年5月6日作成

2012年9月27日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られ

ました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 冬のちよう

小川未明

2020年 7月18日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>